



春日井ロータリークラブ
2014～2015年度 WEEKLY REPORT

クラブテーマ

ロータリアンのフェロシップで、 世界・地域に、何か良い事をしよう！

植物園 ニュートンのリンゴの木

会 長：加藤 久仁明 例 会 日：金曜日12:30～13:30
副 会 長：蓮野 美廣 例 会 場：ホテルプラサ勝川
副 会 長：山田 治 事 務 局：春日井市鳥居松町5-45
幹 事：近藤 太門 T E L：(0568) 81-8498
会報委員会：長谷川 英輝 F A X：(0568) 82-0265

E-mail: ksgl-rc@gaea.ocn.ne.jp



本日のプログラム

- | | |
|--------------|----------------|
| 司会 | 和田 了司君 |
| ・点 鐘 | 加藤久仁明君 |
| ・国 歌 | 「君が代」 |
| ・ROTARY SONG | 「われら日本のリータチアン」 |
| ・ビジター紹介 | 加藤久仁明君 |
| ・食事・歓談 | |
| ・委員会報告 | |
| ・会長挨拶 | 加藤久仁明君 |
| ・卓 話 | 川瀬 治通君 梅村 守君 |
| ・幹事報告 | 近藤 太門君 |
| ・点 鐘 | 加藤久仁明君 |

2015年2月6日(金)2218回(2月第1例会)

さて本日は、都築正道先生をお迎えしての例会です。都築先生は、中部大学の名誉教授であり、今年度、桑名西 RC の会長エレクトです。中部大学の教授と言う事でよくメイキャップに当クラブにお越しに為られて居ましたので、ご存知の方も多と思います。本日の卓話、楽しみにしています。

幹事報告 幹事 近藤 太門君

都築正道さん、遠くよりお越頂き卓話をして下さりありがとうございます。又、加藤茂君の卓話を久しぶりに聞くことが出来ました。ありがとうございました。幹事報告ですが、今日のご連絡をしておく事は特にありません。

次週予告です。次週2月6日は第8回の理事役員会を11時30分より5階の若草にて、開催します。理事役員の皆様よろしくお願します。例会の卓話は新入会員の川瀬治通君と梅村守君です。お二人共よろしくお願します。

◎例会変更の案内

岩 倉 RC	2月24日(火) 2月22日(日) 地区大会の為 ウェスティンナゴヤキャッスル
瀬 戸 北 RC	2月24日(火) 2月26日(木) 夜間例会の為 木曾路
名古屋城北 RC	2月24日(火) 2月22日(日) 地区大会の為 ウェスティンナゴヤキャッスル
名古屋みなと RC	2月20日(金) 2月22日(日) 地区大会の為 ウェスティンナゴヤキャッスル
名古屋守山 RC	2月18日(水) 2月22日(日) 地区大会の為 ウェスティンナゴヤキャッスル

先週の記録

会長挨拶 会長 加藤久仁明君
2週に渡り休ませて頂きすいませんでした。1月16日は、交通安全功労者緑十字銀賞を頂に東京の日比谷公会堂に行っていました。この緑十字賞は金賞、銀賞、銅賞と三つの賞が有り、銅賞は各県警の本部長から授与されますが、金賞と銀賞は夫婦同伴で出席し、東京で警察庁長官より授与いたします。全国で約700人、来賓として、秋篠宮両殿下、内閣総理大臣、衆参両議長をお迎えしての表彰式でした。この式に向かう新幹線で、近藤ガバナーと同一車両で一緒になりました。ガバナーは2月の会員大会の講師にお会いに行くとの事でした。先週の月曜日に、カテーテルを入れての検査をしましたが、そのあと発作が起こり、長期入院になり、例会を休む事になってしまいました。今週からとりあえず社会復帰を致しましたが、完全ではありませんので皆様の、ご支援を仰ぐことになると思いますので宜しくお願いすると共に、この2週間のロータリーの友情に感謝いたします。

世界理解月間

例会予定	2月13日(金) 卓話 藪下 尚武君 卓話 朽本 正樹君	2月20日(金) 祝福 卓話 場々大刀雄君	2月27日(金) 卓話 峠 テル子	2月28日(土) 3月6日例会変更 少年自然の家 10時
------	------------------------------------	-----------------------------	----------------------	------------------------------------

ホームページ：<http://www.kasugai-rc.jp>

E-mail：ksgl-rc@gaea.ocn.ne.jp

変名誉なことであり感謝にたえません。ただ、浅学非才な身、みなさまのご期待に応えることが出来ますかどうか、忸怩たるものがあります。未熟の段、ロータリーの友情でお許しくさいますようお願いいたします…」というようなあいさつで、私たちは、卓話や講演は始めるのを常としています。ところが、外国では、特に欧州やアメリカでは、一般に日本とはまったく違った順序で始めます。まず、「みなさま、こんにちは」と会場の全員にあいさつしてはいけません。先ず、最初にあいさつすべきは、講師を紹介して下さった司会の方に対してです。なぜなら、この会の講師に当人を招いたのはおおむね司会をする担当者だからです。

司会者にお礼を 欧米の講演会では、まず、「テーマ」が大切です。いまももっとも切実な事柄について、もっとも権威のある人から情報を得たいというので講演会や卓話を設けます。日本は、講演会や卓話の日が決まっています、その日にあった頼みやすい人物を選びます。話のテーマは、その方任せになります。「テーマ」が中心の欧米の講演会では、そのテーマに詳しい専門家を選んで招聘します。講師を選んで頼むのは、企画者です。その企画者が司会を兼ねて、講師を招いた理由とその講師の業績を参加者に語るのです。ですから、講師は出てくると先ず、その司会者・企画者にお礼をいかなければなりません。「数多くある専門家の中から私をお選びいただきありがとうございます。今日は、あなたのご期待の応えるよう、私が日頃研究しておりますその一番新しい研究成果をここでみなさんにはなさせていただきます」。本日は、司会の朽本さんと加藤茂さんに感謝いたします。

高貴な方にあいさつ 司会者にお礼を言った講師は、「みなさま、こんにちは」をまだ言ってはいけないのです。真っ先にごあいさつすべき方は、その会場にいるもっとも上位にいる高貴な方に対してです。本日は、会長の加藤久仁明さんと副会長の蓮野美廣さんに山田治さんに真っ先にごあいさついたします。また、お親しい方たちにもごあいさつしなければなりません。中部大学の副学長中島泉さん、東海高校の後輩で合唱団仲間の社本太郎さん、東海メールの川瀬治通さん、コンピュータでお世話になっている和田了司さんのみなさまにお会いできました。外国では、ナポリの「ジギスムント・タールベルク国際ピアノ・コンクール」の最終日の会場に、主催者のお一人であるナポリ王国の王女さまがおいでになっているときもあります。また、香港の演奏会の前夜祭に大使がおいでになります。オーストリアの大学では学長や理事長が私の講演を聞きにおいでになる予定もありました。実際にはおいでになりませんで

したが、そんなときには、むろん真っ先に王女さまや大使閣下にごあいさつをしなければなりません。そして、「お歴々のみなさま、紳士淑女のみなさま」へ移ります。もし、日本のように、最初に「私は……です」などと自分の名前を高貴な方より前に出すことは、失礼になります。日本では、反対に、自己紹介を最初にしないと、「この人は、自分がTVや新聞で有名になったと思って、日本中のみんなが知っているのだから尊大にも自己紹介しないのだな」と誤解されてしまいます。

ジョークを言う そのあと、まだ本題に入ってはいけません。ここでジョークを言わなければなりません。わたしが本日、みなさまに用意してきたジョークは、「本日は全国的に……2015年1月30日金曜日です。みなさまは、お帰りの時に手帳をお出しになって日にちをお確かめになるでしょう。今日は1月30日金曜日だが、こんな酷い卓話を聞かされたので、きっと13日の金曜日に違いない」（笑い）。講演の初めの方でジョークを言うのは、聞いている方の緊張感をといてリラックスしていただくためです。身体も、耳も、脳も、ゆったりと気楽にしてお聞きいただくことで、難しい話も楽しく聞けるからです。落語家が、噺の前座に「まくら」で小さな小話を振るのもそのためです。小話で笑えば、お客はそのあとも、「面白そうだから話を聞いてやろう」とい気になります。ここまできたら、もうこちらのものです。

次年度のテーマ そして本題ですが、私が本日お話ししたいのは、次年度のRI会長“ラビ”ラビンドランさんが示したテーマ“*Be a Gift to the World!*”についてです。これを、日本では、「世界へのプレゼントになろう」と分かりやすく訳しました。原題の「ギフト」(Gift)を「プレゼント」としたのは、それなりの意味があるのでしょうか。「プレゼント」(贈り物)は、「ギフト」(贈呈品)よりも軽い意味があり、すでに日本語です。日本のロータリアンには、「プレゼント」の方が理解しやすく、大衆性と庶民性があります。それに、「プレゼント」という言葉には宗教性はありません。もっとも、「ギフト」には、「贈り物」という意味のほかに、「天賦の才能」という意味もあります。オー・ヘンリーの短編「賢者の贈り物」の原題は“*The Gift of the Magi*”です。ここで、「ギフト」がつかわれているのは「メイジャイ」(Magusの複数形)、すなわち、イエスの生誕に贈り物を持ってきた東方の三賢人が選んだ贈り物だからです。ラビンドランさんは、「ギフト」に、「授けられた才能」の意味を重ねながら、「信念、情熱、才能を捧げるだけでなく、皆さん自身を世界へのプレゼント(ギフト)として捧げて下さい」といっているのでしょうか。すなわち、次年度のテーマには、「全身全霊をかけて」

という強い意味があります。その意味で、「ギフト」を「プレゼント」と訳してしまうと、この「叡智ある贈り物」の意味の二重性がなくなってしまう。

二種類の贈り物でも、「プレゼント」(present)にも、たくさんの重要な意味が重なってあります。原意「目の前にある」から、名詞では「贈り物」「現在」、動詞では「口頭発表する」「出席している」となります。ディケンズの小説「クリスマス・キャロル」には、三人のクリスマスの幽霊が出てきます。「過去のクリスマスの幽霊」と「現在のクリスマスの幽霊」と「未来のクリスマスの幽霊」です。「現在のクリスマスの幽霊」のことを、ディケンズは、「クリスマス・プレゼント」と呼びます。この洒落が言いたくて、ディケンズはこの物語を書きました。いま、NHKテレビの「スーパー・プレゼンテーション」という専門家による「口頭発表」番組が大好評です。ロータリーでは、この叡智溢れる「プレゼン」のことを、古くから「卓話」と呼んで珍重しています。

私の本日の卓話が、そのようなものであることを願っています。

ご清聴、ありがとうございました。



卓話 都築 正道君



会長挨拶 加藤 久仁明君



卓話 加藤 茂君

